

非常ニ増加シテノ結果體温ガ上昇シタノヲ見タ。コノ二ツノ例ニヨツテ蒸發ト云フコトハ必要デナイコトニナル。從ツテ化學的ノ體温調節ト云フコトモナイ譯デアル。コ、ニ於テモ亦體温ノ高低ハ體重ニ反比例スルト云フワケデアル。發熱ノ際ニハ水分ニ對スル身體細胞ノ親和力ガ増シ鹽分ノ含量ガ増加スル、ソノ結果肺ヤ皮膚カラノ水分排泄ガ減少スル。ソウスルト丁度蒸發ト云フ化學的ノ體温調節ヲスル様ニ見ヘル。故ニ正常體温ニ於テ蒸發ニヨリテ必要體水分ノ缺乏ヲ來シタ場合ニ發熱スルト云フワケデアル。併シ成人ニ於テハ前述ノ原因ニヨツテ體水分ガ尤モ著シク減少シタ時ニノミ發熱スルモノデアアル。發熱ハ直接的ノモノデハナイ。乳兒ニ於ケル蓄積體水分量ハ非常ニ少イ而シテ容易ニ變化スルモノデアアル。ソノ上乳兒ノ體温調節機能ノ發育ハ尤モオクレルモノデアアル。小兒ノ保健上水分ヲ十分供給スルコトハ尤モ必要デアル。水分供給不足ノタメ發熱シタ様ナトキニハ殊ニ必要デアル。コレラノ觀察ニヨツテ直ニ小兒ノ發熱ハ液體ノ缺乏ニヨツテ起ルト云フコトガ説明デキル。

(横田抄)

雜報

●會員敘任及辭令

安藝軍醫長兼分隊長海軍軍醫少佐 那須 四郎

免本職並兼職

海軍軍醫少佐 那須 四郎

待命被仰付但舞鶴ニ滞
在スベシ

(二月二十四日)

敘正六位

陸軍三等軍醫正從六位勳四等 松 井 篤 治

特旨ヲ以テ位一級被進

陸軍三等軍醫正從六位勳四等 松 井 篤 治

敘正六位

從六位 横 川 定

陸軍高等官五等

岡山醫學專門學校教授正七位 木 下 益 雄

三管乘組被免第九驅逐隊軍醫長心得被仰付

海軍軍醫中尉 吉 栖 生 一

免本職補塞灣歩兵第二聯隊附

(三月一日)

歩兵第五十四聯隊附陸軍三等軍醫 川北伊勢吉

免本職補塞灣歩兵第二聯隊附

工兵第十九大隊附陸軍一等軍醫 稻富一郎
免本職補山砲兵第二聯隊附

山砲兵第二聯隊附陸軍一等軍醫 藤井眞澄

免本職補工兵第十九大隊附

(三月七日)

絃正五位

從五位勲六等

八木田 九一郎

(三月十日)

第十五師團軍醫部部長陸軍一等軍醫 三宅 幹夫

免本職第十五師團留守軍醫部員被仰付

岡山衛戍病院附陸軍二等軍醫 佐治 豊

免本職

(三月十七日)

●學位授與決定 去月二十一日京都大學醫學部教授會に於て高祖敏雅君の論文審査を爲し醫學博士の學位を授與することに決定せり其論文及異歴は左の如し

明治三十九年岡山醫學專門學校を卒業し岡山縣病院外科に勤務し四十四年一年志願兵として第十七師團に入營し大正二年二月勤務を了へ退營す同年四月京都帝國大學醫學部病理學教室に勤務し今日に至る

主論文

生理的及病理的狀態ニ於ケル輸卵管ノ形態學的研究(第二報告)

輸卵管ニ於ケル脂肪沈著ニ就テ

京都醫學雜誌第十六卷第七號(大正八年七月)抜刷

參考論文

一、生理的及病理的狀態ニ於ケル輸卵管ノ形態學的研究(第一報告)

輸卵管粘膜炎ニ於ケル「グリコゲン」ノ發現ニ就テ

京都醫學雜誌第十五卷第一、二號(大正七年一月三日)抜刷

二、生理的及病理的狀態ニ於ケル輸卵管ノ形態學的研究(第三報告)

産卵期ニ於ケル家鷄輸卵管ノ變化ニ就テ

岡山醫學會雜誌第三百五十三號(大正八年六月三十日)別刷

三、輸卵管粘膜炎ニ於ケル吸收及排泄作用ニ關スル形態學的研究(實驗的研究)

日本病理學會々誌第七卷別刷

四、原發性腺腫ニ就テ

京都醫學雜誌第十三卷第一號抜刷

五、消化管ヨリセル「アッオ」色素ノ吸收及排泄ニ就テ

京都醫學雜誌第十六卷第七號(大正八年七月)抜刷

六、「カルミン」及ビ之ト同性質ノ色素ヲ以テセル「エムブリオ」組織ノ生理色素攝取ニ就テ 醫學博士 清野謙次共著

京都醫學雜誌第十六卷第十號(大正八年)抜刷

七、生理的及病理的輸卵管ノ形態學的研究(第四報告)

輸卵管結紮試驗

岡山醫學會雜誌第三百六十一號(大正九年二月二十九日)別刷

八、生體染色知見補遺

京都醫學雜誌第十七卷第三號(大正九年三月)抜刷

●醫學士稱號許可 岡山醫學專門學校に於ては本月二十五日論文檢定の上長船郁太郎君に岡山醫學專門學校醫學士の稱號を用ふることを許可したり

●會員動靜

○安藤晝一君 曩日出發せられたる同君は一月十三日紐育に到着、約三週間滞在の後ポストンに行き二月二十日ボルチモアに着せられ同地に十日許り滞在セントルイス、ロチエスター、シカゴ等を経て本月末紐育に歸り四月中旬渡英せらるゝ豫定なり

○伊藤幸憲君 豫て在米中の同君は二月二十日紐育を引揚げポストンに到着しハーバート大學外科病理に入りリツシング教授に就き外科をカウンシルマン及ウォルバハ氏に就き病理學を研究せられつゝあり尙ほ君の寓所は左の如し

c/o Mrs. Loarned

Suite 4, 113 Garusborough St.,
Boston, Mass.

U.S.A.

○陶守三思郎、前川鼎君 は今回岡山醫學專門學校講師を囑託せられたり

○天川保君 は一昨年來郷里に於て開業し居られしか今般廢業の上京都醫科大學及大阪醫科大學に於て醫化學を研究せらるゝ由

○大原孝度君 は先般岡山縣防疫醫を辭し歸郷せられたり

○宮本良男君 は豫て三重縣鳥羽造船所に勤務し居られしが今回播磨造船工場社宅病院へ轉勤せられたり

○河本信一君 は本年一月明治生命岡山支店を辭し上京せられたり

○岩佐誠一君 は今般明治生命岡山支店を辭し當市上内田町に於て開業せられたり

●岡山縣病院落成式 大正六年地を鹿田に相し改築工事に着手したる岡山縣病院は其功を竣へたるを以て本月二十三日午前十一時より新築病院に於て落成式を舉行せり列席者は朝野の名士四百五十餘名にして振鈴を合圖に一同着し香川知事の式辭、寛岡山縣病院長事務取扱の祝辭、

兩宮土木課長の工事報告、中山岡山市長、松江縣會議長、島園京都帝國大學教授等の祝辭ありて正午式を終り別室に於て祝宴を開き一同退散したるは午後二時なり

尙ほ同病院は同月二十三、二十四、二十五の三日間一般公衆に縦覧を許したり

●九州岡山醫學同窓會 來四月十日九州醫學會總會の當日午後六時より大分市蓬萊公園蓬萊俱樂部に於て岡山醫學同窓會を開催さるゝ筈なり尙ほ其詳細は本誌廣告欄にあり

●役員會 本月二十五日午後一時半より岡山醫學專門學校(内山下)に於て本會役員會を開き大正十年年度豫算を議決し尙ほ其他一二の事項を可決し午後二時半散會せり

原著紹介

(雜誌順序不同)

●治療新報(第三二六號)

貧血及び其療法 (今村明光)

脊椎側彎及び其療法ニ就テ(承前) (桂秀三)

●治療新報(第三二七號)

腸震蕩及び其療法 (柳壯二)

貧血及び其療法(承前) (今村明光)

●京都醫事衛生誌(第三二二號)

京都市ニ於ケル傳染病ニ就テ(二) (淺山忠愛)

●國家醫學雜誌(第四〇九號)

少年法ト「クリニツク」 (泉二新熊)

火傷死ノ原因ニ就テ(補遺)(承前) (谷實抱)

生理ト經濟トヨリ見タル食物(一一) (淺田二)

長壽者ニ關スル調査報告 (三田谷啓)

布疔ニ於ケル衛生狀態(承前) (飯島博)

●日本學校衛生(第九卷第二號)

學校醫ニ必要ナル耳科學的知識 (久保猪之吉)

兒童健康保護當面ノ一策 (長谷川卯三郎)

健康監督問題 (佐藤富治郎)

學齡兒童ノ腸寄生蟲調査及寄生蟲ガ學業成績ニ及ボス影響

(柳澤徳)

小學兒童ノ發育狀態 (木俣隆平)